

謹んで新春のご祝詞を申し上げます

旧年中は大変お世話になりました

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます

三井記念美術館は、平成17年に中野区の三井文庫別館を中央区日本橋に移転し、本格的な美術館として開館いたしました。三井家の創業の地であり、三井グループ各社に縁の深い日本橋で、活発な美術館活動を展開し、高い芸術と文化を発信する意義は、日本の将来を見据える上で非常に大きいと考えております。

三井記念美術館の使命は、三井家に伝来した貴重な東洋・日本の美術コレクションを安全に管理し後世に伝えるとともに、それを展示して多くの方々に鑑賞と教育、研究の場を提供することにあります。その一方で所蔵品だけでなく各方面から優れた作品を借用して展示する特別展を、年に数回開催することにあります。

展覧会としては、春の「奈良 西大寺展－叡尊と一門の名宝－」は、鎌倉時代の高僧叡尊を中心として仏像、仏画、金工品など宗教と芸術を融合した仏教美術の優品を展示し、夏の「地獄絵ワンダーランド」は、永遠の謎である死後の世界を考えるとともに、楽しみながら地獄を覗くという企画で好評を博しました。また、秋の「驚異の超絶技巧！－明治工芸から現代アートへ－」では、牙彫、木彫、七宝、金工、陶芸、漆工、染織などまさに超絶技巧の作品が多くの人を驚かせ、いずれの展覧会も多くの方々にご来館いただきました。そして、現在開催している「国宝 雪松図と花鳥－美術館でバードウォッチング－」は、例年通り国宝『雪松図』を展観するとともに、渡辺始興『鳥類真写図巻』などの鳥に関わる名品を展示しております。

昨年10月には、大きな節目である200万人目の入館者をお迎えすることができました。開館以来何度もお出でいただいている方も含め、日本各地、あるいは海外からの来館者も多くなっております。これもひとえに関係者の方々のご理解とご協力の賜物と感謝しております。「国宝 雪松図と花鳥」展に引き続き、本年度最後は「三井家のおひなさま」展（2月10日～4月8日）を開催いたしますので、ご覧いただきますようご案内申し上げます。

平成30年元旦

三井記念美術館  
館長 清水 眞澄